

総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会

ICT時代の文理融合研究を創出する可視化小委員会（第25期・第4回）議事要旨

日時：令和5年2月28日（火）15:00 - 16:30

会場：遠隔会議（主催会場：立命館大学衣笠キャンパスアート・リサーチセンター）

出席（敬称略）：田中（立命館大）、北川（サイバネットシステム（株））、李（立命館大）、明和（京都大）、坂本（神戸大）、坂野（愛知学院大）、山口（奈文研）、安達（（株）シュールド設計）、宮地（東京都市大）、應矢（京都国際マンガミュージアム）、鹿内（亜細亜大）、長谷川（立命館大）

資料1：「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」への応募

資料2：可視化分科会からの「見解」の骨子

資料3：委員会のこれまでの活動内容

資料4：「見解」の初案

議事録

(0) 前回議事録要旨の承認について（資料3 p.42）

- ・ 承認された
- ・ 議事録の要旨の事務局提出に関して委員長に一任された

(1) 科研費学変(A) 2023年度応募の結果の報告

残念ながら不採択であったが、4小委員会の連携が強化され、『未来の学術振興構想』の策定に向けた『学術の中長期研究戦略』（以下、「中期研究戦略」）の応募に活かされた

(2) 「中期研究戦略」応募の報告（資料1）

「科学的知見の創出に資する可視化分科会」の、「可視化の新パラダイム策定小委員会」（藤代委員長）、「社会に資する可視化の小委員会」（伊藤委員長）、および本小委員会の連係を基盤とする内容として、なっている。3つの小委員会がそれぞれ一件ずつ申請した。本小委員会の申請は、情報科学と文化芸術科学、ビッグデータを中核とした文理融合研究に関するものになっている。

(3) 可視化分科会からの「見解」の骨子説明と発出について（資料2）

- ・ 上記3小委員会の合同で、日本学術会議の「見解」の申請書類を作成中であることが報告された。
- ・ 事務局に提出済みの「意思の表出の申出書」および「見解」の現在のドラフトについて審議し、「意思の表出の申出書」に記載の方針通り、25期のうちに「見解」の発出を目指すことが承認された。

(4) 当小委員会からの文理融合可視化等に関する意見の「見解」反映について（資料 4）

- ・ 当小委員会の主たる担当節は、「(2) 文化芸術科学におけるビッグデータのビジュアル分析」である。
- ・ 1) 歴史的建造物 などの有形文化財の 3 次元計測データ, 2) 舞踊・ダンス・ヨガ など無形文化財の時系列データ, 3) マンガ・アニメ・ゲーム の 3 種文化について、ビッグデータを中核とした文理融合研究の振興を提案している。
- ・ 上記の方針で執筆を進めることを確認した。ただし、今後の審査コメントに応じて、適宜に方針の修正にも柔軟に応ずることとする。

以上